

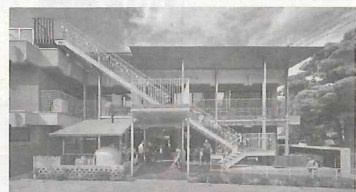
施設内に私設図書館

地域呼び込む仕掛けで交流

社会福祉法人聖救主福祉会

社会福祉法人聖救主福祉会（東京都江東区）は5月1日、デイサービスと学童保育クラブなどが一体となった複合施設「深川えんみち」を開設した。施設内の仕切りを極力廃し人の回遊性を向上させたつくりや、イベントなどで使用する交流スペース、私設図書館の設置などで、人々の交流を促す施設となっている。

建物は2階建て。1階部分にはオープンキッチンのある「まちキッチン」、庭に面したリビング「わいわいスペース」、ゆっくりと横にもなれる畳敷きの小上がりがある「ゆったりひろば」を設けている。基本的に、まちキッチンには認知症対応型デイサービス（定員12名）、わいわいスペースとやすらぎスペースは一般型デイサービス（同23名）で使用。庭や通りに面する部分



▲「えんみち」(写真中央部)が地域住民と施設関係者の接点となる



▲写真左から、小久保佳彦法人代表人本部長、岩長、渡邊淳也総務人事部部长、岩崎美恵子管理者

ト・レクリエーションを実施できる。

建物をはば南北に通路「えんみち」が貫つなぐ「本道」が貫いている。ここは共用部であり、地域住民も含めて誰でも利用可能な私設図書館「エンミチ文庫」を設置。本棚は1区画ごとに有償で貸し出しており、利用者は自分の好みの本を配置し本の貸し借りを行う。

空き物件リノベ 日本財団助成で

施設内には間仕切りが少なく、明確なゾーニングが存在しない。高齢者や子ども達、地域の人が施設の中を行き交うことで、多世代間の自然な交流を促す狙いがある。

「これまで法人で取り組んできた地域交流の活動を発展させつつも、より自然に地域社会と日常的につながれる場にした」と考える（小久保佳彦法人代表人本部長）

介護グループ

マシンで個別リハビリ

短期集中型で運動

半日型で、「短期集中」で運動できる環境となっている。定員10名と少人数制で、職員が利用者一人ひとりと向き合う時間を確保。



▲写真左から、ゆう介護グループ新井雅明社長、生活相談員 新井悠子氏

柔道整復師の資格を持ち、高齢者のリハビリを専門的に行ってきた機能訓練指導員が、利用者の希望・目標に合った個別性の高いリ



▲マシンを活用しながら、個人々の希望や目標に合わせたケアを提供する

ハビリティを提供する。リハビリで主に使用するのが「リハトレーナー」というマシンだ。これは、レッグプレス、ローイングなど、4種類のマシンでトレーニングを行うもの。利用者ごとに身体状況を計測・評価し、トレーニング履歴や評価がグラフ化できる。個別に最適なトレーニングメニューを構築するために活用している。

「病院でのリハビリを終えた人が『もっとリハビリを続けて良かった』と思う」と思っても、それができる場が地域

岩崎美恵子管理者は「利用者にとっては、外とのつながりが感じられるので安心感がある。居心地のよい場になっている」と話す。

ゆう介護グループ（群馬県伊勢崎市）が運営する地域密着型通所介護・総合事業の通所型サービス「介護予防運動型デイサービス」ハートリハつなごり」は、少人数制による本格的なリハビリテーションが強みだ。コロナ禍の開業であったが、リハビリニーズの高さもあり、利用者数が順調に増加している。

現在利用登録者数は48名、毎月6〜8名ほど問合せがあるという。「数年前のチラシを大事に保管していた、状況が落ちついた今、問合せが来るケースも珍しくない」

今後は人材育成・働かやすい職場環境づくりなどによってサービスの質を高める。群馬県の事業である「ぐんま介護・福祉人材育成宣言事業者」として認定を受け、人事制度のブラッシュアップや雇用管理体制の強化を図る。